

蒲生君平生誕生二五〇年記念事業 趣意書

ふるさと栃木は、東日本において有数の古墳・遺跡があり、古くから文化が栄え、歴史や伝統を受け継ぎながら、工業や農林業など多様な産業がバランス良く発展を遂げ、今日に至っています。私たちが今日、こうした豊かな暮らしを享受できるのは、数千年にわたる先人たちの努力の積み重ねの結果に他なりません。

古代の下毛野朝臣古麻呂や慈覚大師円仁、近世の蒲生君平、近代の田中正造など郷土の偉人を讃え、その努力を後世に伝えていくことは、今に生きる者の責務でもあります。

折しも二〇一八年（平成三十）は蒲生君平生の誕生二五〇年の節目に当たります。近年、江戸時代の歴史の見直しが進む中、君平生の業績も注目され、全国的な古墳ブームに合わせ、その盛り上がりが期待されます。

ご案内のとおり、本県には徳川光圀の命によって発掘調査が行われた上侍塚・下侍塚古墳があり、我が国の考古学の端緒となったとも言われます。蒲生君平生は宇都宮で生を受け、学問で身を立てることを誓い、後に徳川光圀の遺命『大日本史』を編纂する彰考館で、いわゆる水戸学に触れます。そして、二度にわたる山陵調査を経て二一〇年前の一八〇八年（文化五）、『山陵志』の出版に至り、本書の中で天皇陵に「前方後円墳」の語を史上初めて用いたのであります。

後の一八六二年（文久二）、水戸藩士が起こした坂下門外の変に関わったことなどにより宇都宮藩は危機に陥ります。起死回生の策として建白したのが『山陵志』からヒントを得た「山陵修補」でした。一八六五年（慶応元）、三年余をかけての修補は、無事に完成し、陣頭指揮をとった戸田忠至は、その功績により一万石を分知され、江戸幕府最後の大名が誕生します。修補を終えた折、忠至が君平生を偲び感謝した歌が残されています。

こうした史実を踏まえ、誕生二五〇年に当たる本年、様々な記念事業を展開しながら、郷土の偉人、蒲生君平生に改めて光を当て、郷土の歴史・文化を周知し、郷土への愛や誇りを醸成する機会を県民の皆様を提供することにより、大型観光キャンペーン本番を迎える栃木の広報・宣伝活動による本県への誘客促進と地域の活性化を図りたいと考えています。そこで、「みんなで祝う」を合い言葉として、多くの県民の皆様に参加していただけるよう、実行委員会を設けて諸準備を進めているところです。記念行事は、左記のとおり春から秋にかけて「君平生文化のつどい」や「栃木の古墳巡り」、「埴輪づくり教室」など関係市町と連携した参加型行事などを計画しています。しかし、計画実現には皆様のお力添えが不可欠であります。皆様方には、趣旨に御賛同いただき、御協力を賜りますよう、衷心よりお願いを申し上げます。

記

春～秋

蒲生君平生紹介展示

講座 蒲生君平生と栃木の前方後円墳（仮題）

講演会 しもつけ古墳群（仮題）

春の部（四月～五月）

君平生古墳祭／演奏会・古墳巡り（大田原市）

君平生古墳祭（下野市）

夏の部（八月）

君平生文化の集い（栃木県総合文化センター）

君平生誕生二五〇年記念大茶会

埴輪づくり教室（栃木県埋蔵文化財センター）

秋の部（十月）

蒲生君平生誕生二五〇年記念書道展

君平生古墳祭（宇都宮市）

蒲生君平生が残したもの 幕末～明治維新にかけての宇都宮藩（仮題）（宇都宮市）

平成三十年二月十五日

蒲生君平生誕生二五〇年記念事業実行委員

会長 須賀英之

副会長 影山樽三雄

副会長 林 香君